

# 月刊 書字文化

～日本書字文化協会機関紙 No 25～

平成 26 年 12 月号 毎月 10 日発行

一般社団法人日本書字文化協会

代表理事・会長 大平恵理

〒164-0001 東京都中野区中野 2-13-26 第一岡ビル 3 階

電話 03-6304-8212 FAX 03-6304-8213

E メール [info@syobunkyo.org](mailto:info@syobunkyo.org)

ホームページ <http://www.syobunkyo.org>

## 目次

- 第 3 回伝統文化大会応募作作り佳境に・・・2
- 書き初め、年賀はがきコンクールの特色・・・3
- 臨書習作展を開催あいさつ・・・・・・・・・・4
- 氷田光風遺墨展開く・・・・・・・・・・6
- 各種地域講習会日程・・・・・・・・・・8
- コラム (以下は定例メニューですが、今号は年末特別編成でお休みとします)  
「こころ」(大平恵理) 「きのう 今日 あす」(渡邊啓子・副会長)  
「教学半」(池田圭子・教学参与) 「文鎮」(佐藤貴子・指導主任)
- ▲ 下記の資料はホームページにあります。
  - ・ 第 3 回伝統文化大会実施要項、規定課題一覧
  - ・ 第 1 回リン書展関連コーナー

## 第3回伝統文化大会

# 応募作品制作佳境に

・・・1月17日締め切り

書き初めと年賀はがきは、正月にちなむ伝統文化の代表格です。書文協は毎年、1月17日締め切りで、伝統文化大会を開いています。学生書き初め展覧会と全国年賀はがきコンクールで構成、日本の伝統文化を強く意識する大会を目指しており、今年で3回目。書文協と公益財団法人日本文字・活字文化推進機構共催、文部科学省、小・中・高各校長会、全日本書写書道教育研究会の後援です。

実施要項、課題一覧は [web](#) 月刊書字文化資料編、書文協ホームページにあります。

第二回年賀はがきコンクール  
文部科学大臣賞受賞作品 ←

第2回書き初め展覧会  
文部科学大臣賞受賞作品

## 4つの特色

### 特色1、権威ある中央審査委員会が厳正に審査

学習指導要領に基づく書写書道をモットーとする書文協は流派を名乗らず、流派、書風の違いを超えた審査を進めます。担うのは、書写書道教育の権威者からなる中央審査委員会（書文協ホームページ参照）。もう1つの評価を得るためにもお気軽に出品してください。

## 特色 2. 規定課題と手本、評価の観点が公表されます

学生書き初め展覧会の毛筆の部では、小学校3年生以上は書文協発行の手本はありませんでしたが、今大会から規定課題を定め、参考手本も発行することとしました。いずれも書写教科書からとった課題ですが、参加者全員が同じ条件となるよう、大平恵理会長が見本手本を揮毫し、発行することとしました。間もなく、ホームページに掲載の予定です。紙は1枚10円。書文協にお申し込みください。

同時に、作品を書くときに注意すべきポイントを書いた「評価の観点」も発表されますので、書写書道学習に直結します。

## 特色 3. 地域大会参加課題は自由課題で出品を

一方、各地域のコンクールで出品した課題は、書初め毛筆の「自由課題」の部で参加することができます。その際、用紙は半紙から半切まで自由です。ただし、縦書き、縦使用が条件となります。使用する漢字も、教育漢字の学年配当を守ることを求められます。

## 特色 4. 年賀・書初め中学生以下出品料据え置き

全国年賀はがきコンクールは全体として、学生展書き初めコンクールは毛筆も硬筆も中学生以下は値上げしません。ただし、消費税は5%から8%となります。

(単位・円 消費税込み)

### 個別コンクール 幼小中 高校以上

年賀硬毛一律	380	648
書き初め硬筆	432	648
毛筆	540	907



# 臨書習作展を開催

第1回漢詩臨書展（27年3月末日応募締め切り）のテーマ漢詩「楓橋夜泊」を臨書する習作展は11月27日から30日まで、東京都青梅市沢井の澤乃井ガーデンギャラリーで開かれました。同ガーデンは秋色濃い多摩川上流鵜の瀬溪谷沿いであり、観光客も含め、多くの見学者でにぎわいました。

ご あ い さ つ

## 同文の国、相互理解の架け橋に

書文協代表理事・会長 大平恵理



多摩川上流、東京都青梅市沢井の鵜の瀬溪谷に建つ日本寒山寺を舞台に、臨書展を開催いたします。中国の古典を書写する臨書は、書の学びの基本。同時に、同文の隣国の文化理解を深める好機と期待しております。そのイベントとして、書文協講師や付属書写書道専修学院青梅教室生徒らによる習作展を、秋色濃い鵜の瀬溪谷近辺にて開くことと致しました。

日本寒山寺は中国・蘇州の名刹、寒山寺が明治前期、日本での布教のため当地の篤志家らの協力を得て、蘇州の本山を模して建立しました。無住ですが、漢詩 楓橋夜泊で知られる鐘楼や碑文も蘇州そのままに建てられており、東京の奥座敷にある秘められた日中友好の場でございます。

漢詩 楓橋夜泊は、中唐の詩人、張継が詠み、書としては清代の書家の手になる寒山寺碑文が伝えられています。その拓本を臨書の手本といたしますが、日本の正書である教育漢字で学ぶ小学生のために、私がこの漢詩に含まれる教育漢字10文字を楷書で揮毫し、お手本といたしました。

幸いにも臨書展は、青梅市日本中国友好協会、蘇州寒山寺、書の難関大学・中国国立南京芸術学院と蘇州呉昌碩研究会、日本で活動する中国書法学院の後援をいただき、日本寒山寺を管理している酒造元のご協力も得て開催されます。応募締め切りは平成27年3月末日。優劣よりも参加に第一義を置くコンクールです。お気軽に出品ください。

## 型の隣には、いつも「心」を

臨書展運営委員長（書文協副会長）

渡邊啓子



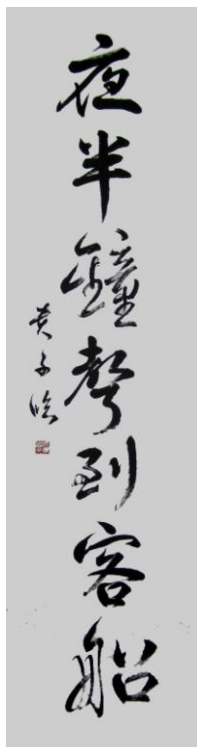
書写書道の基本は、まず手本にいかになづくかを学ぶことです。いわゆる「型にはめる」。その後、逆に型を割り、自己表現の世界へと移ります。つまり、「型を出す」。臨書展は、その足がかりとして大変意味があると思います。

大事なものは「自己」です。いかに多くの練習を、様々な経験を積んできたか。失敗や挫折をする中で、どの様に乗りに越えてきたか。そうした中から、優しさや思いやり、豊かな人間性が生まれてくるのだと思います。

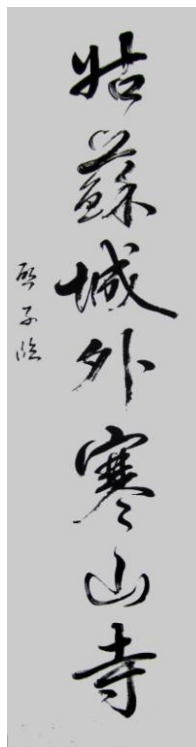
「書は人なり」「書は体を現す」。その人から滲み出てきたものが感動や共鳴するものを産み出していくのです。それは、優しさ、豊かさ、たくましさ等…心ある愛のかたまりみたいなものではないでしょうか。

漢詩臨書には、漢詩の心とともに、書く人の心がにじみ出てくると思います。専門語で言われるところの「意臨」です。

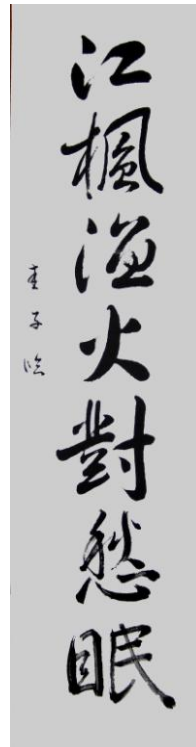
型の隣には、いつも「心」を備えて、白い紙に臨みたいものです。



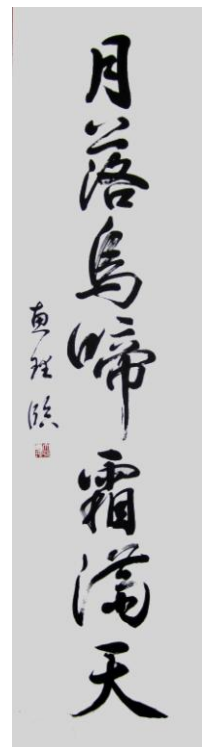
佐藤貴子



渡邊啓子



池田圭子



大平恵理

# 書写の鬼・光風遺墨点開かれる

## 東京・小金井

“書写の鬼”と言っても過言ではない故・氷田光風（本名・作治）氏が亡くなって8年になります。業績をしのぶ「光風遺墨展」が11月20日から24日まで、JR小金井駅南口前の小金井市民センターで開かれました。光風氏が弟の清風氏とともに運営していた「清光書道会」（事務局・東京都小金井市本町）が主催しました。

## 学習指導要領（書写書道）の確立に尽力

同会の月刊機関誌「清光」639号によると、光風氏は金沢市出身、國學院大學卒。金沢市内の尋常高等小学校・旧制中学校の先生を経て1943（昭和18）年、東京第2師範学校（東京学芸大学の前身）教諭となります。戦後間もなく学芸大講師となり、助教授を経て山梨大学に助教授で移り、同大教授を経て1983（昭和58）年に退官後も全国各地の大学に招かれて教壇に立ちました。

特筆されるのは、文部省（当時）の学習指導要領書写書道部門の確立に尽力したことです。小学校の書写検定教科書の著者も務めました。多くの著作を残していますが、その書写理論は峻厳で、伝達の道具としての文字を正しく、整えて、読み易く書く技法を厳格に主張し、守りました。書道会の経験主義、精神主義に基づく古い体質にも反対し、舌鋒鋭く相手を問い詰める風雲児でもありました。

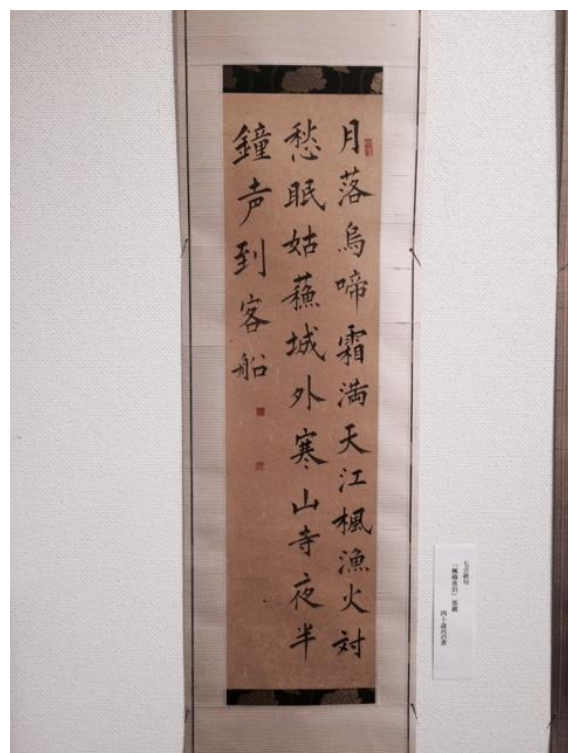
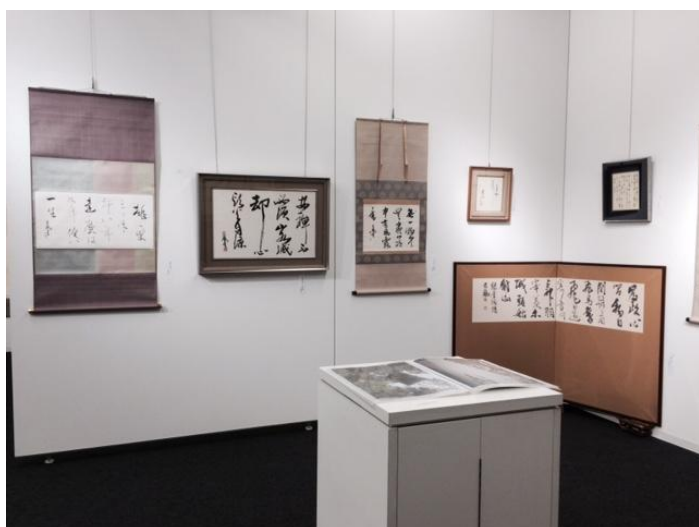
## 書文協から大平恵理・池田圭子の同期が遺作を表敬

小金井市は東京第2師範学校が小金井にあったことから住居を定めた地。高校1年生のころから氷田氏の自宅まで書を習いに通った大平恵理（書文協会長）、池田圭子（同教学参与）の2人も遺墨展に駆けつけました。2人は同年齢の同期生。今は共に書文協の軸として後輩たちの指導に当たっています。

2人の頭に残るのは、光風氏手ずからの筆遣指導ももさることながら、光風氏の自宅が書物で埋まり、蛍光灯のかさの上にまで書物が積まれていたことなど、細かな日常のあれこれ。あるいは日本武道館が千葉・勝浦で開いた書道合

宿の懇親会。光風氏のピアノ演奏で皆で合唱した光景です。そこには、井上孤城（輝夫）・書文協審査顧問、磯野光象・同審査委員や柳下昭夫・全国書写書道教育振興会会長の往年の姿もありました。

遺墨展会場には、光風氏の少年のころの作品も飾られました。昨年正月、書文協が青梅市中央図書館展示場で開いた「青梅市が育てた書写指導者～大平恵理、渡邊啓子とその仲間展」と同じ形です。渡邊は書文協附属書写書道専修学院青梅教室を開いています。努力を継続すれば誰でも字は上手になる――2人には“書写の鬼”氷田光風がそう語りかけてくるように思われた遺墨展でした。



# 講習会を重視

## 大会錬成会と連動

書文協では、中野の本部から講師が練習場に出向く各種講習会を重視しています。学びの基本となる各教室での授業に加えて、テキストや検定受検の手本作りを初め、書写書道教育の指導法・教材開発に直接関わる本部講師陣から直接手ほどきを受けるのも効果があるでしょう。また、講習会が違う教場、違う園・学校のお友達と一緒に学ぶ“競い合いの場”となることを期待しています。

大会前の夏と冬に開かれている錬成会も同時開催し、希望者は一般練習と大会課題解説の錬成会にも参加できる形にし、学びの効率をよくしました。

検定システムから離れ、1日の講習を受けることで最後の終了試験をクリアすればライセンスが得られる「えんぴつ指導者ライセンス講習会」は各地で講評を博していますが、来年も可能な限り各地で開きます。目下、2-3月の定が決まっていますのでご利用ください。

### ◇ えんぴつ指導者

#### ライセンス講習会◇

月・日	地域
2月 1日	名古屋
2月 15日	宇都宮
2月 22日	仙台
3月 1日	新潟

#### ◇地域講習会（兼錬成会）◇

月・日	地域
5月 24日	仙台
5月 31日	宇都宮
6月 7日	福岡
6月 21日	名古屋
6月 28日	新潟
7月 5日	大阪
7月 24日	東京



大阪錬成会の様子